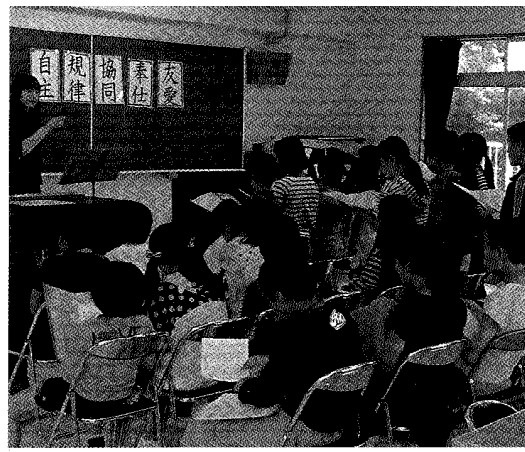


これらの事業を通して当協会では、更に子供たちに、世界共存の認識と思いやりの心を培い、世界平和実現の自覚を高める為、積極的にユネスコ活動を推進してまいり所存です。

尚、今年度は富岡ユネスコ協会が誕生し四十五年を迎えており、将来に向けた組織・事業の見直しも検討していかなければ成らないと考えておりますので、尚一層のご支援賜りますようお願い申し上げます。



沼田ユネスコ協会

——ユネスコスクール・利根実業高校からの発信——

副会長 下田 一成

十二月十九日、市内秋塚町そば処「山水」で、主催・利根実業高校、群馬奥利根連合そば会による「優勝報告会」があ

りました。第一回全国高校生「そば打ち選手権大会」五回までの成績と気仙沼そば打ち交流や地域活性化協議会、県そば文化連絡協議会主催等の各種事業への参加にとどまらず料理コンテストにも応募して得た注目すべき評価結果の報告でした。

この数々の賞はユネスコ世界無形文化遺産「和食」・粉の食文化日本一の群馬・健康食品蕎麦(脳出血予防効果、肝臓機能強化)の脚光、そば生産高第一の北海道の栽培等を学び、自校での栽培体験や地域のイベントにボランティアとして活躍するなど、総合的学習と体験的学習、食文化クラブ活動等々もたらした成果報告でした。

これらの中で特に新鮮だったのは伝統的な日本食である蕎麦を活かした第一回そば料理レシピコンテストで「そばクレープの豆乳トマトグラタン」を考案し、応募され見事最優秀となった和南城ほかさんの料理でした。料理となれば食材の個性を理解し、その人の感性(味覚、触覚、嗅覚、視覚等五感)でアプローチすることになります。この感性は経験を積む中で研ぎ澄まされると専門家とは言われませんが一層考案されたこの料理に引かれてまいります。

今回の報告を受け、持続可能な社会づくりのために自分達が出来る活動を見付け参加している生徒達に感銘し、未だ具体的にESDパスポートの活用を勧めていなかったことを痛感しています。



▲最優秀賞を獲得した和南城さん

館林ユネスコ協会

二十七年年度の二事業紹介

今年度の館林ユネスコ協会の事業について、今回は二つの事業について紹介いたします。

まず、一つ目は二十八年ぶりに群馬県ユネスコ連絡協議会の定期総会開催地に館林市が選ばれ、館林ユネスコ協会がホストになりました。定期総会後は向井千秋記念子ども科学館のプラネタリウムにて、小惑星探査機「はやぶさ」の地球への帰還についての投影を観覧し、二十八名に参加していただきました。

二つ目は、毎年行っているサマースクールについてです。当ユネスコ協会では、七月に市内の小学生及び中学生を対象に開催しております。今年度は茨城県つくば市で研修しました。午前中は地質標本館を見学し、館内学芸員の方々に説明いただきながら、化石や鉱物、地層についてなど、私たちが生きる地球の歴史について学ぶことができました。子ども

たちのアンケートをみると、恐竜のファンや、ダイヤモンドが特に印象に残った子が多いようでした。午後はつくばエキスポセンターで研修しました。つくばエキスポセンターでは、「プラネタリウムにて「楽しい星空さがし」を観賞後、子どもたちに自由に施設内を見学してもらいました。特にプラネタリウムは世界最大級のドームであり、広がった星空に子どもたちも驚いていました。

今回の研修が、参加した子どもたちが自分たちの生きる地球について、そして先進的な科学技術について理解を深めるとともに、環境意識および学習意識が高まるきっかけになればと考えております。

当ユネスコ協会では、子どもたちにもそのような機会を提供できるよう来年度もより実りのある事業を計画・実施していきたいと考えております。

